

○今月の病害虫発生状況○

- ・炭疽病の発生は平年並、うどんこ病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類の発生はやや少なく、アザミウマ類の発生は平年並です。
- ・ハスモンヨトウの本ぽにおける幼虫発生は多いです。

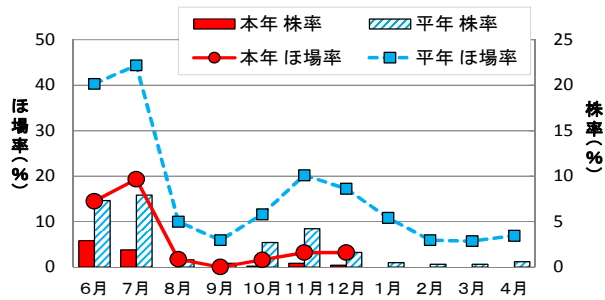


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

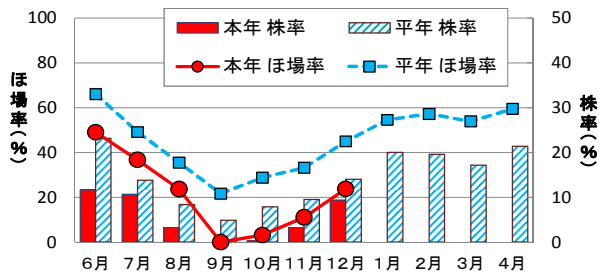


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

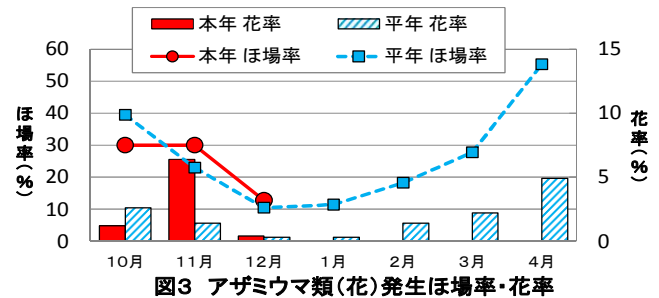


図3 アザミウマ類(花)発生ほ場率・花率

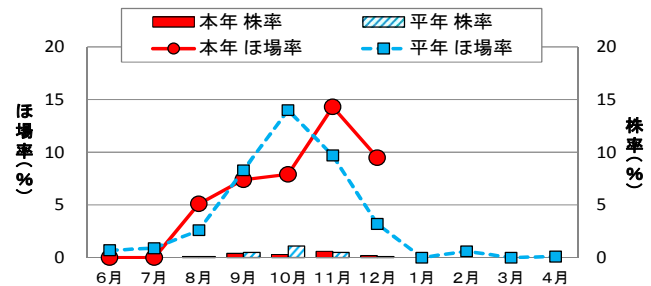


図4 ハスモンヨトウ幼虫発生ほ場率・株率

○今月の技術情報（技術指導班）○（12月）

・いちごの生育は、「とちおとめ」、「スカイベリー」とともに、株によるばらつきが見られるものの概ね順調ですが、高温傾向で推移してきたため、着色が早く、出荷が前進化しています。

・現在の病害虫の発生は、うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が散見されますが、全体的には平年並か少ない傾向です。

・ハダニ類やアザミウマ類に対する天敵の導入は、年々増加傾向にあります。しかし、その効果は、放飼時期やほ場環境により差が生じます。天敵を導入しているからと過信するのではなく、ほ場をよく観察し、害虫の発生が多く見られる場合には、天敵に対する農業の影響日数を考慮しながら、速やかに防除しましょう。

・1か月気象予報では、気温は高く、降水量は多く、日照時間は少ないと発表されています。ハウスの密閉時間が長くなるとハウス内の湿度が高くなり、灰色かび病や菌核病の発生が懸念されますので、適切な温湿度管理を行いましょう。



写真1 糸を張るナミハダニ



写真2 花に寄生するヒラズハナアザミウマ